



夏休みの自由課題で、6年生の桑原琴那さんが書いた「社会を明るくする運動」作文が県で入賞し、1月4日に熊本市内で表彰式がありました。

1月21日付けの人吉新聞に掲載されましたので、読まれた方もおられるかと思います。この作文を読みながら、私自身がとても元気づけられました。

そして、子どもたちは、周りの大人との何気ない日常のやり取りから、大人や社会に対する信頼や生きる勇気などを学び取りながら成長していることを、改めて気付かされました。

3学期もあっという間に、3分の1を終えます。3月23日が全学年の修了式、翌24日が全学年参加しての卒業証書授与式です。最後の日に向け、それぞれの学年に応じた学習のまとめや準備を進めているところです。子供達には、1時間1時間の授業を丁寧に重ねていってほしいと思います。

しばらく寒さは続きますが、子どもたちが元気に登校できますよう、保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

持久走大会近づく

1月29日（木）の持久走大会に向け、朝からランニングをしたり、体育の時間にコースを走ったり、練習を重ねているところです。学校周辺の道路を周回しますので、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願ひします。また、ご都合がつかれる方には、沿道でのご声援をよろしくお願ひします。

9:45~ 1·2年生
9:55~ 3·4年生
10:15~ 5·6年生



2~3月の主な行事

2月

- 5日（木）多良木中学校入学説明会
6日（金）新入学児童体験入学
19日（木）PTA 役員会（18:30～）
19～20日 標準学力検査（1～6年）
27日（金）3学期授業参観・懇談会

3月

- 6日（金）お別れ遠足 6年生を送る会
23日（月）修了式（1～6年）
24日（火）卒業式（1～6年）
〔3/25～ 春休み〕
26日（木）退任式

《令和8年1月21日付け人吉新聞掲載より引用》



口アツソ熊本賞 思いやりの心

社明運動作文入賞作品

社明運動作文 入賞作品

口アソソ熊本賞

思いやりの心を広げよう

久米小学校6年生 桑原 琴那

私は「社会を明るくする運動」という言葉を聞いたとき、社会全体が光に包まれるようなイメージがうかびま

だと思ひます。

社会を明るくするため大切なことは、まず「思いやりの心」だと考えます。例えば、

電気の光や太陽の光のことではなく、人と人との心のつなぎによつて社会を明るくして

いこうという意味なのです。だから私は「社会を明るくする運動」という言葉を聞いたとき、社会全

ての草かりなどをかけてきました。するとその友達は、少しだけ笑顔を見せてくれました。ほんの一言でも、相手の気持ちをやわらげることができるのだと感じました。人の気持ちによつて社会を明るくするため大切なのは、大き

い家族との生活の中でも、社会を明るくすることはできると思いま

す。私は家で母の手伝いをよくします。食器を片づけたり、洗たく

学校で友達がいやなことを言われて落ちこんでいることがあります。その時、勇気を出して「大丈夫?」と声

をかけたことがあります。するとその友達は、少しだけ笑顔を見せてくれました。ほん

の言葉には人の心を温かくする力があると思います。家のなかが明るくなれば、そこから社会全体が明るさを広げられるはずです。

来春、私は中学生になります。勉強や部活動でいそがしくなると

思います。優しさや思いやりは人から人へ広がっていくと思いま

すする第一歩になるのだと思ひます。

また、わたしの住んでいる地域では、定期的にじょ草作業があります。近所の人たちが

私たちが登校する道で

いふと「いらっしゃい。氣をつけてね」と言つてくれます。そ

の一言を聞くと、うれしくなり、また手伝おう

といふ気持ちになります。

物をたたんだりする

といふ母は「ありがとう」と言つてくれます。そ

うを伝えるなど、その積み重ねがまわりの人を

地域の方から声をかけてくださります。そ

の言葉で気持ちが明るくなり、安心すること

ができます。あいさつ

と地域の方から声をか

けてくださります。そ

うで力になります。

小さな行動が社会を明るくする大きな力になると私は信じています。

そして、私の行動を見た人が「自分もやつてみよう」と思つてくれたらとてもしてきだ

と思います。優しさや

思いやりは人から人へ

広がっていくと思いま

す。そうして社会全体

が少しずつ温かく明るくなればいいなと思

います。（終わり）

